

大学等名：金沢大学

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）複合型

学生の主体性を涵養するカリキュラム・教育方法・学修支援環境の統合的な改革を目的として、学士課程の専門教育を対象に3つの施策：(1)学域・学類の中核をなす科目群でのアクティブ・ラーニング(AL)の深化・充実、(2)ALに適した学修環境の活用・展開、及び(3)学修過程・成果の可視化による学修評価の定量的評価(IR)に取り組む。

5年間の取組で、次の成果を上げる。(1)ALの取組を収集・検証・普及するための授業カタログの整備、FDリーダーの養成、授業改善サイクルの確立。(2)アクティブ・ラーニング・アドバイザー(ALA)の養成、ワークショップ教室等の学修空間デザイン、グループ学修支援体制の確立。(3)多元的な教育学修評価指標の開発、学修ポートフォリオ／カルテの運用、学生バックアップ・ポリシーの策定。

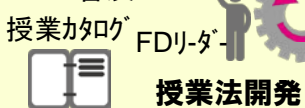
（取組のポイント）

3. 学修評価の定量的評価(IR)

- 多元的な教育学修評価法の確立 **能動的な学修**
- 学生支援・学修支援の方針(バックアップ・ポリシー)の策定

1. アクティブ・ラーニング(AL)の深化・充実

優れた授業を収録した授業カタログの作成とFDリーダーによるALの普及



2. 学修環境の活用・展開

アクティブ・ラーニング・アドバイザー(ALA)の導入とALに適した学修空間デザイン



主体的で自立的な深い学びの達成

対象部局と対象科目

人間社会学域

理工学域

学域共通科目

学類専門基礎科目

▶ 学士課程専門科目へ展開

学修評価の定量的評価

能動学修に関する、GPAとは異なる新しい学修評価法の確立

客観評価

客観的評価の一層の精緻化

自己認知的な学修評価

主観評価



振り返り 多元的な評価方法を開発

学生ひとりひとりのポートフォリオを作成



可視化

教員：教育方法・内容の改善
学生：自ら考える主体の形成

個々の学生に適した、テラーメイトの学生支援・学修支援を行うこと

相互の主体的学びあい

バックアップ・ポリシーの基本

【事業の成果(代表的な指標)】

| | 26年度 (実績値) | 28年度 (実績値) | 31年度 (目標値) |
|-----------------------|---------------|---------------|---------------|
| アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合 | 93% | 97% | 100% |
| 学生の授業外学修時間 | 12時間 | 13時間 | 24時間 |

本事業の実施を通じて、これまでの改革を加速

第1ステージの改革

- 学域学類制のもとで学生が自己の適性・資質を見極めながら学ぶ環境の整備

第2ステージの改革

- 金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)を基軸とする教育カリキュラムの再構築
- 学生の主体性を涵養するカリキュラム・教育方法・学修支援環境の統合

